# 平成26年度　佐賀県立唐津工業高等学校　学校評価結果

| １ 学校教育目標 | ２ 本年度の重点目標 |
|---|---|
| ２１世紀を担う心身共に健康でたくましく、知徳体の調和の取れた、視野の広い、工業や社会の発展に貢献出来る人材を育成する。<br><br>（学校経営ビジョン）<br>全ての生徒が入学して良かったと思う学校、保護者が入学させて良かったと思う学校づくり。 | ①学校教育目標の周知と地域への情報発信<br>②いじめ・暴力行為の防止と早期発見・迅速な対応<br>③生徒は授業を改善、教師は授業を充実<br>④規範意識の高揚、服装・頭髪の端正さの向上<br>⑤進路指導の充実<br>⑥校内（特に教室）の美化<br>⑦資格取得への意識の醸成と実績の向上<br>⑧部活動の活性化、ものづくりによる「地域連携・貢献」<br>⑨ICT利活用教育の推進 |

| 達成度 | |
|---|---|
| | A：ほぼ達成できた |
| | B：概ね達成できた |
| | C：やや不十分である |
| | D：不十分である |

３ 目標・計画

①学校教育目標の周知と地域への情報発信

| 領域 | 評価項目 | 評価の観点（具体的評価項目） | 具体的目標 | 具体的方策 | 達成度 | 成果と課題（左記の理由） | 具体的な改善策・向上策 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 学校運営 | ○学校経営方針 | 学校経営ビジョン及び重点目標の周知とその達成度 | 保護者や生徒の重点目標の周知度を70%以上にする。<br>学校経営ビジョン及び重点目標については「学校はよく努力している」と評価する保護者や生徒の割合を80%以上にする。 | ・保護者に対しては、PTA総会、地区保護者会、唐工ニュースで周知を図る。<br>・重点目標を中央廊下に掲示したり、全校集会で説明して周知を図る。<br>・学校経営ビジョン、重点目標の達成に向けて一つ一つの取り組みを徹底する。 | B | 学校の方針や重点目標については、保護者へはPTA総会、PTA役員会、地区保護者会など機会があるごとに、生徒へは全校集会でたびたび説明をし、ほぼ周知することができた。しかし、一部の保護者や生徒にの周知度は低い。 | PTA総会や地区保護者会の参加率を上げ、周知度をさらに高める必要がある。また、総会や地区保護者会などに参加しない保護者に対し、周知度を上げる取組が必要である。一方、生徒に対しても集会等で話をしたが、生徒への周知は保護者に比べ少し低い。学校掲示板に掲示するなど、目標を「見える化」し、職員は意識をさらに増し、家庭と学校が連携を図り、充実した取り組みができるように試みたい。 |
| | | 地域に信頼される学校づくりに向けた情報公開 | 高校入試志願率の向上<br>（一般入試で定員の1．2倍以上を確保） | ・唐工ニュースやメディアなどを通じて、活躍する生徒の情報を地域へ積極的に発信する。<br>・体験入学、中学校ごとに行われる高校説明会等では学校PR用の動画を用い、生徒に分かりやすい説明を行う。 | B | 生徒たちの活躍状況を唐工ニュースや数多くのメディアを通じて情報発信し、本校教育活動を十分PRすることができた。また、地域の催し物で小学生対象に「ものづくり教室」を実施するなど、地域との連携も十分にできた。アンケートによれば、保護者は学校のHPをあまり見ていないという結果であった。<br>生徒の登下校時のマナー等でお叱りを受けることもあったが、一方では、体育大会の取組や登下校時の生徒の挨拶がよいとお褒めの言葉をいただく事も多くあり、体験入学や特色選抜入試では多くの参加者、志願者があった。 | 工業科各科が特色あるテーマに取り組み、その成果をしっかりとPRし、工業高校の魅力を伝えていき、学校活性化、入学志願者の増加に繋げていきたい。地域貢献や地域と連携した取組のテーマは、どの科にもあるのですべての科でしっかり取り組んでいきたい。<br>一方、部活動の活躍や資格取得の実績も学校PRには効果的なので、工業科職員だけでなく、全職員がその意識を持ち、取り組んでいく必要がある。 |

②いじめ・暴力行為の防止と早期発見・迅速な対応

| 領域 | 評価項目 | 評価の観点（具体的評価項目） | 具体的目標 | 具体的方策 | 達成度 | 成果と課題（左記の理由） | 具体的な改善策・向上策 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教育活動 | ●いじめ問題への対応 | いじめ問題の防止と早期発見 | ・いじめ問題の早期発見のためのアンケートを2ヶ月に1回実施する<br>・いじめ問題が発生しないための校内巡視の徹底 | ・いじめアンケートを2ヶ月に1回実施し、その後生徒全員に対して面談を実施し、問題の早期発見、防止につなげる。<br>・いじめ問題等が発生しないよう、職員朝礼時の校内巡視、昼休みの校内巡視、ホームルームを複数の担任で実施するなど、発生しにくい環境づくりに努める。<br>・ヒューマントレーニングや全校集会などで、他人を思いやる心情、自他の人権を尊重する態度を育む。 | B | 学校生活に関する意識調査の回数を増やしたことと、その後のすべての生徒への担任や副担任による面談で、生徒間の関係を知る手掛かりになっている。今年度はいじめとして認知した事案が1件あったが、職員相互の連携、迅速な対応、さらに、被害者やその保護者への誠意を持った対応ができ早期に解決することができた。しかし、日頃の生徒の言動に教職員が注意し、根気強く注意、指導を継続しなければ、いじめは簡単に起こることを常に考えておく必要がある。 | 「いじめ」については、クラス担任を中心に“いじめ早期発見”のアンテナを高く張り、また、各科、各教科担任の授業においてもその兆候を見逃さず、各科、各部署、職員全員が連携をとって迅速対応、早期解決に努めていかなければならない。<br>相手に対して「言っていいこと、悪いこと」や「していいこと、悪いこと」の区別がつかない生徒が増えている。幼いころからの経験不足、家庭での教育力の低下により、高校生の段階で当然できるはずのことができない。「していいこと、悪いこと」の区別をつけるソーシャルスキルトレーニングの必要性がある。 |

③生徒は授業を改善、教師は授業を充実

| 領域 | 評価項目 | 評価の観点（具体的評価項目） | 具体的目標 | 具体的方策 | 達成度 | 成果と課題（左記の理由） | 具体的な改善策・向上策 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教育活動 | ●学力向上 | 授業態度の改善 | 授業中の態度を成績の一部として評価する。好ましい授業の雰囲気を作り、全員が真剣な態度で受けるよう指導する。 | ・「学習状況調査記入簿」の活用を推進し、保護者面談や成績評価時に効果的に利用できるようにする。<br>・各授業中の生徒の学習状況で、指導が必要であれば厳しく対処しその都度、改善を促していく。<br>・学習評価において、授業態度を大幅に重視（35%）することを周知徹底し、生徒の自覚を促しながら改善を図る。 | B | 「学習状況記入簿」の活用が学年により多少温度差があったが、各学年で生徒指導や保護者面談等で活用することができた。学習態度は客観的に見て、良好とは決していえないが、学習評価で授業態度を重視することが生徒たちに浸透し、生徒自身が自覚し学習に取り組んでいるようである。 | 来年度も、「学習状況記入簿」を活用し、生徒指導や保護者面談等の資料として活用できるように取り組んでいきたい。また、授業態度についてもより一層の指導を行い学期末や学年末で欠点を取る生徒をできるだけ少なくしていきたい。さらに、教師は、授業が学校教育の柱であることを再認識して、日頃の授業に臨まなければならない。 |

④規範意識の高揚、服装・頭髪の端正さの向上

| 領域 | 評価項目 | 評価の観点（具体的評価項目） | 具体的目標 | 具体的方策 | 達成度 | 成果と課題（左記の理由） | 具体的な改善策・向上策 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教育活動 | ○生徒指導 | 頭髪・服装指導の改善 | 登下校はもとより、普段の身だしなみに対する意識を向上させ、さらに頭髪・服装検査合格者を昨年度より増加させる。 | ・３人担任制を有効に運用することにより、改善を図る。<br>・頭髪・服装検査の強化及びイエローカードの活用。<br>・普段の着こなしに対する新たな指導方法を確立する。 | B | 大半の生徒が、クラス担任や生徒指導やその他、全職員からの注意を真摯に受け止め、頭髪服装に気を配れるようになっている。服装や頭髪に対する外部からの指摘もほとんどなくなった。 | １年生オリエンテーションでの業者による「着こなしセミナー」は良い成果をあげているため、今後も継続していきたい。約1～2割の特定の生徒が指導に十分乗ってこないため、保護者を巻き込んだ根気強い指導が必要と思われる。 |
| | ●心の教育 | 道徳教育の推進 | 規範意識、公共モラル・マナー、自他の生命尊重など、人格形成の一助となることを目指す。 | ・年16回、10分間の「ヒューマントレーニング」を実施する。<br>・学期に1回、テーマを生徒に設定させる。<br>・予め設定したテーマに対して生徒が感じたままを意見として書き、回収した後、担任・教務等で検証し、しっかりした意見等については中央廊下や教室に掲示する。<br>・心に響く、心を揺さぶる刺激を与えるような意見は学校HPに掲載するなど、保護者にも子どもたちが考えていることを紹介する。 | B | 本校独自のこの取組は生徒へは定着してきた。しかし、保護者等への紹介ができなかったので、次年度は学校HPに掲載するなどの新たな取り組みが必要である。今年度は、新たな取り組みとして、生徒たちが考えたテーマで実施することができた。<br>1回目は「ラインやネットを使ったいじめ」について、2回目は生徒会役員が生徒総会で提案したトレーニングテーマ「言葉づかい」をテーマに、計2回の生徒主導のトレーニングを実施し、好評を得た。 | 生徒の規範意識や道徳的心は少しずつ向上しているように思える。まだ、一部の生徒たちは、浸透していないところもある。来年度は、「ヒューマントレーニング」の回数（年16回計画）を減らし、生徒へのフィードバックを検討し、日頃の授業やHR、部活動など色々な場面で生かせるような取り組みを行う。合わせて学校HPへの掲載や保護者への紹介を行う。 |
| | | ボランティア活動への積極的参加 | 生徒会主催の校内ボランティア活動への参加、及び各種外部団体主催のボランティアへの参加の合計数100名を目指す。 | ・生徒会役員の生徒に校内の小さなボランティア（あいさつ運動や清掃ボランティア）を企画させ、短時間で少人数のスマートな奉仕活動を数多く行い、学校全体に潤いを与えていくようにする。<br>・毎学期学校周辺での清掃活動を実施し、唐津特別支援学校行事への参加、社会福祉協議会等主催のボランティア活動に自主参加することを促す。<br>・ボランティア参加実績は、その状況に応じて、個人の進路実現に大きく寄与することがあってしかるべきであるので、推薦会議等の場でこれまで以上にアピール要素にしていくことを生徒へアナウンスしていく。 | B | 1年を通して、生徒会役員による取り組みのおかげで、朝のあいさつ運動など、部活動生を中心に回数を多く行うことができた。<br>対外ボランティアは街頭募金、唐津特別支援学校の行事、市の催事、など、様々な活動に参加した。 | 数年前に比べ、生徒会役員に立候補する生徒の資質や意識が変化してきた。活動も徐々にではあるが活性化と安定感が感じられるようになり、成熟してきたと思う。<br>今後は、ボランティア活動を中心に、生徒の自主的な企画を引き出させたり、運営そのものをなるべく多く任せられるように指導していければ、と思う。 |

⑤進路指導の充実

| 領域 | 評価項目 | 評価の観点（具体的評価項目） | 具体的目標 | 具体的方策 | 達成度 | 成果と課題（左記の理由） | 具体的な改善策・向上策 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教育活動 | ○進路指導 | 進路の実現 | 生徒が主体的に進路を選択し、卒業時の進路決定率100%を達成する。. | ・生徒の就職・進学の希望の実現を目指して基礎学力の向上に努める。<br>・会社訪問を行い、職場開拓や求人会社の情報を生徒に提供する。<br>・進学希望者については、1年時から進学意志の確認と高揚に努め、基礎教科について個別指導を行う。 | B | 目標である進路決定率100%はほぼ達成したものと思う。初回の就職試験での内定率は85%と昨年から10ポイント以上上昇した。進学については国立大学に2名、4年ぶりに合格を果たした。このことは、日ごろより積み重ねてきた早い段階からの進路意識の啓発が功を奏したものと思われる。また、昨年以上に、生徒・保護者に情報提供を心がけ、効果的に伝達できたと判断できる。しかしながら一方で、学力不足のために1回目の試験で内定できない生徒もいた。今後は、1年時からの進路意識の高揚に努めるとともに、生徒の学力の向上が課題である。　会社訪問については就職支援員の協力を得て、精力的に行うことができた。 | 本年度は地元唐津はもとより県内外より新規求人、復活求人があり、生徒の選択幅が広がった。地元唐津を中心に県内企業からの求人も多かったが、希望する生徒数がおらずお断りした企業も多かった。ほとんどの生徒については希望どおりの地区で内定を頂くことができたが、一方で相変わらず学力不足のために内定を頂けない生徒もいた。学力向上のためには各分掌・担任・教科と連携して集中力のある授業態度を養わせ、家庭学習の習慣をつけさせる必要がある。また、進路意識の高揚のためには高校生活の早い時期からのキャリア教育が必要である。「卒業生や企業の方からの話や体験談を聞く」、「職業調べ」などの取り組みをしていかなくてはならないだろう。大学進学希望者の学習指導については各生徒の到達度と希望校に合わせ、1年次からの個別指導を継続していきたい。 |

⑥校内(特に教室)の美化

| 領域 | 評価項目 | 評価の観点（具体的評価項目） | 具体的目標 | 具体的方策 | 達成度 | 成果と課題（左記の理由） | 具体的な改善策・向上策 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教育活動 | ○環境整備 | 校内の美化、環境問題に対する意識の啓発、施設の安全点検 | 職員・生徒が日頃からきれいな環境で過ごしたいと思う気持ちを高め、校内が美しくなるように する。ゴミの減量化と資源物（紙類）の回収を実施する。安全点検を実施し、必要な対策を行う。 | ・教室の校内美化点検を毎週末行い、結果を担任へ報告する。<br>・ゴミ分別を行うとともに資源物(紙類)を回収し、環境に配慮する。<br>・毎月、各点検箇所の責任者が安全点検を実施し、報告する。<br>・環境問題についてHR活動を通して生徒の意識の啓発をはかる | B | 掃除の時間に音楽を放送することで、生徒の掃除への取りかかりが改善された。ごみの量が以前に比べて減少している。各掃除区域から出されるゴミの分別が不十分であるが、掃除時間の保健委員による分別作業はおおよそきちんと取り組まれていた。週末に生徒保健委員による教室の美化点検を行っているが、ゴミが散乱していたり、整理整頓が不十分な教室がある。 | 以前の状態からすると、廊下や教室内の美化について改善されつつある。安全点検については毎月実施してきた。<br>各階の共用室を掃除区域に組み入れていなかったため、高校入試前の掃除が大変であった。次年度以降の掃除区域組み替えの段階で配慮する。環境美化については全職員・全生徒との協力が不可欠なので、今後も全体に訴えていく。 |

⑦資格取得への意欲の醸成と実績の向上

| 領域 | 評価項目 | 評価の観点（具体的評価項目） | 具体的目標 | 具体的方策 | 達成度 | 成果と課題（左記の理由） | 具体的な改善策・向上策 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教育活動 | ●学力向上 | 基礎学力の定着と夢の実現 | 学力が低い生徒には、確かな基礎学力を身につけさせる。また、出口である3年生の就職試験は1回目の試験で希望通りの合格が出来るようにする。 | ・「数学会」は、今年度も数学の基礎学力が低い生徒を抽出し、全職員で毎日3名ずつの輪番にて1学期間中補習指導を行い、分かる授業へ結びつける。<br>・進路指導部とも連携し、特に3年生については昨年度の指導形態を踏まえ、基礎学力をより一層定着させ、就職試験は一次試験で合格できるよう全職員で取り組むよう計画する。 | B | 学力の向上の為に行っている「数学会」は、今年度は期間中休む生徒もほとんど無く、達成感も得られそれなりの成果が出たように思う。該当生徒のその後の数学の成績を見ると、効果が現れている。特に、数学のトテストでは他の生徒と変わらないくらいの点数をとっている。 | 今後も達成感を得られ、数学の力がついたことが実感できるような工夫を取り入れ、生徒がその他の教科にも興味を関心を持って学習に取り組めるようにしたい。現在、一部の生徒に対して「数学会」を行っているが、1年生の全生徒に放課後学習者用PCを使い数学以外の教科も含め、短時間で継続的に行えるような取り組みを検討したい。 |
| | | 資格取得の推進 | 資格試験の合格率を前年度より10%アップする。 | ・「資格試験ハンドブック」を有効に活用し、各自が卒業までに取得を希望する資格を決めさせる。<br>・資格取得の意義を理解させ、資格取得状況を掲示するなどして、意識の向上を図る。 | B | 「資格試験ハンドブック」は生徒や保護者にとって有効な情報源になっている。そのため、受験者は例年同様に多かった。一部の資格試験では、多くの合格者を出した。危険物取扱者試験においては最初のハードルを低くして丙種も受検させることにより合格の達成感を持たせることができた。ジュニアマイスター認定総数は昨年と同数であった。 | 資格取得に対する意識の高揚は、進路指導の面からも重要であるが、合格率を上げることは、生徒のさらなる取り組みの改善、経済的な負担を減少させることができ重要な課題である。<br>奨励する資格の変更、指導方法の工夫など、指導する側の体制の見直しも必要である。 |

| ⑧部活動の活性化、ものづくりによる「地域連携・貢献」 | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 領域 | 評価項目 | 評価の観点<br>（具体的評価項目） | 具体的目標 | 具体的方策 | 達成度 | 成果と課題<br>（左記の理由） | 具体的な改善策・向上策 |
| 教育活動 | ○特別活動 | 部活動の活性化 | 部活動への加入を奨励する。加入率を前年度より増加させ、活動の活性化を図る。 | ・入学式、各集会などで部活動の教育的効果、人格形成に対する効果などを説明し入部を督励し、1年生の入部率を向上させる。<br>・とくに1年生については3日間の体験入部、および1学期間の全員加入を経て、部活動の魅力を味あわせ、充実した学校生活に役立たせる。<br>・部活動生の活動してきた実績は、その状況に応じて、個人の進路実現に大きく寄与することがあってしかるべきであるので、推薦会議等の場でこれまで以上にアピール要素にしていくことを生徒へアナウンスしていく。 | B | 新入生に対する入部への働きかけとしては、3日間の体験入部、看板での入部アピールなど、十分であったと思うが、入部後については各部の活動状況や顧問の指導裁量、指導観などが違うため、1学期間高いモチベーションを維持させることや、2学期以降の入部率を高く保つことは難しかった。 | 生活研究部を廃止にしたことで、来年度以降の新入生の動きがどのように変わるか、ということに注視したい。合格者登校日や入学式等で、生徒、保護者に部活動の重要性を訴えていきたい。 |
| 教育活動 | ○地域連携・貢献 | ものづくりによる「地域連携・貢献」 | 「ものづくり」を通して地域に貢献する。 | ・地域イベントに参加し、地域に貢献できる製作テーマを見つける。<br>・地域から依頼された物を製作する。<br>・地元のイベントでものづくりの体験をしてもらう。 | A | 建築科ではヨット世界選手権の時に唐津駅構内に唐津観光案内所を設置した。また、唐津市の老人ホームや保育園など13カ所に手作りベンチを贈り、交通安全標識を山本保育園近辺に設置した。電気科では唐津曳山イルミネーションを製作し唐津商店街に展示をした。さらには、鬼塚公民館で毎年行われている鬼塚まつりでは、全科とも製作体験教室を行った。このような取組は、地域に浸透し、工業高校の存在感を示してきた。 | 学校PRや生徒の意欲の醸成の面からも、今年度同様、ものづくりを活かした地域貢献活動には今後も積極的に取り組んでいきたい。<br>地域との連携・地域への貢献は、専門高校として、学校活性化の中心的な取組である。このような取組が地域や中学生の保護者に理解され、入学希望者の増加に繋げていきたい。 |
| ⑨ICT利活用教育の推進 | | | | | | | |
| 領域 | 評価項目 | 評価の観点<br>（具体的評価項目） | 具体的目標 | 具体的方策 | 達成度 | 成果と課題<br>（左記の理由） | 具体的な改善策・向上策 |
| 教育活動 | ●ICT利活用教育の推進 | タブレット・電子黒板を利用した授業の推進 | 電子黒板・学習用PCを積極的に活用するために、授業手法の見直しを行い、わかりやすい授業の実現を目指す。 | ・SKYMENU、xSyncの使用法の研修を行う。<br>・学習用PCを有効に使うためのWord、Powerpoint利用研修を行う。<br>・不具合等の対策を可能な限り素早く行い、円滑な授業運営を支える。 | B | ・必要な研修は行った。先生方の参加も積極的であった。<br>・電子黒板についてはほとんどの先生方が使用している。<br>・学習用PCの利活用についても、教材インストールの不具合、通信環境の不具合、生徒の充電忘れ、持参忘れ、故障など多くのトラブルがある中、ほぼ毎授業時間使用する教諭も数人おり、十分な利活用が行われている。<br>・生徒も学習用PCの利用に慣れてきており、トラブルを逐一教諭に報告していたのが、自分で再起動してみる等適切な対処をするようになった。<br>・科目によっては教材不足は改善されておらず未だ利活用の道が見えない教科・担当者もいる。 | ・1年の教科担当者については学習用PCの利活用についてはスムーズに行えるようになっている。ICTサポータの存在は大きく、来年度も継続して来ていただきたい。対して2・3年生の授業のみを担当の教諭については不安が残る。しかし、今年度同様利用しなければならない環境になれば、多くの教諭が利用スキルを身につけることができたため、来年度ほぼ全ての教諭が学習用PCを使った授業を担当することになるため、積極的にサポートしていくことで十分な利用が期待できる。<br>・生徒の学習用PCの台数が単純に二倍になり、二年生の学習用PCに関しては経年劣化による不具合の増加も予想される。不具合対応の増加に対応できる人員確保、体制整備が必要であると感じている。 |
| 本年度の重点目標に含まれない共通評価項目 | | | | | | | |
| 領域 | 評価項目 | 評価の観点<br>（具体的評価項目） | 具体的目標 | 具体的方策 | 達成度 | 成果と課題<br>（左記の理由） | 具体的な改善策・向上策 |
| 教育活動 | ●健康・体つくり | 健康の自己管理能力向上の推進 | 保健指導を充実させ、受診率の向上を図る。 | ・健康調査を実施し、生活習慣、健康課題への意識・行動の実態を把握する。<br>・歯科・視力に関する保健指導を実施し、自己管理への意識付けを行う。 | B | 年度当初の生徒健康診断や健康調査を実施することで、生活習慣の大切さ、運動、休養、健康に関する意識付けをしてきた。少人数に対する歯科、視力などの再検査、指導に一定の効果が見られた。検診結果を生徒・保護者に示した後の再受診は少しずつ改善されてきたが、今後も引き続き取り組むことが必要である。 | 保健室を中心に、健康調査を実施することにより、生活習慣の大切さ、運動や休養をきちんととるような、健康に関する高い意識付けができた。<br>受診の必要性を訴え受診率を高めること、事象が起こってからの後始末ではなく、事前指導としての保健指導のあり方を模索していく。 |

4　本年度のまとめ・次年度の取組

今年度の取組で特に力を入れたことは、「いじめ問題の防止と早期発見」である。いじめ防止については、アンケートを年間5回実施し、その後に全生徒と面談を実施した。また、いじめの起こりにくい環境作りのために教室棟の巡視も実施した。まだ十分とはいえないが、「いじめは見逃さない」という学校の姿勢は生徒や保護者に伝わったと判断している。しかし、二学期末に部活動において認知事案が発生したことは残念な結果であった。関係職員の迅速な対応で早期に解決したことは良かった。本校において「いじめの防止」は、最重要な取組として、次年度も全職員でしっかり取り組む必要がある。学校独自の取組の「ヒューマントレーニング」やあらゆる場面での「規範意識や人権意識の高揚」について継続して取りくんでいきたい。また、「ものづくりによる地域貢献」についても力を入れて取り組んだ。特に建築科の模型製作やベンチの寄贈、電気科の曳山イルミネーション製作等は学校の取組をしっかりPRすることができた。次年度もず全ての科で取り組んでいきたい。授業態度については客観的に見ては良好とはいえないが、年々改善されてきた。教師側の授業力向上とともに、粘り強く取り組んでいきたい。「ヒューマントレーニング」については、生徒会のテーマ設定を2回実施することができ、計画通り実施できた。次年度は、心に響くような書き込み等をHPや学校便りに掲載するなど、保護者にも紹介するようにしたい。進路については100%の達成であり、1次内定率も昨年度に比べ上昇した。しかし、学力不足で内定しなかった生徒も多く、進路意識の高揚とともに、基礎学力の定着にも力を入れなければならない。校内の美化活動については、「護美箱」の取り外しや掃除時間の音楽の放送など生徒会の取組と相まって改善されてきた。ボランティア活動については、生徒個々においては地域の活動に自主的参加するなど取組の成果はあったが、学校全体としての学校周辺の清掃活動は予定通り実施することができなかった。実施方法を学年単位へ変更するなど、実施方法を検討する必要がある。

●は共通評価項目、○は独自評価項目